

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2690300120		
法人名	(株)ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家 西ノ京(1)		
所在地	京都市中京区西ノ京冷泉町119		
自己評価作成日	令和2年7月18日	評価結果市町村受理日	令和2年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JinyosyoCd=2690300120-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JinyosyoCd=2690300120-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和2年8月3日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>入居者様に対する誠実な対応。まだまだ実現できていないが、事業所の第一目標です。</p>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>当該ホームは法人の方針でもある「徹底討論 徹底和解」を大切に考え、日々コミュニケーションを図り職員からの提案や意見を毎月行うフロア毎の会議で話し合い、案件によっては全体の会議で検討しホームの運営に反映していく体制が定着しています。職員は利用者の思いに寄り添いできる事を継続しながら生活できるように支援することを心がけ、利用者への支援についても話し合いながら同じ方向を向き取り組めるよう努めています。24時間連携可能な医療体制が整い、利用者や家族の意向を大切にこの一年では3人の看取り支援をしており、マニュアルを整備し個々の利用者に必要なケアについては都度勉強会を行い職員間で情報共有し、家族には面会を増やしてもらったり食事介助の協力を得ながらコミュニケーションを図り思いに合った支援に取り組んでいます。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念づくりが十分ではない。	法人の理念や運営方針を玄関に掲示したり、週に1回唱和することで意識付けを行い、中でも職員には「徹底討論・徹底和解」を大切に利用者への支援についても話し合い同じ方向を向き取り組めるよう努めています。今年度はホーム独自の理念の作成に向け職員アンケートを行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流が十分ではない。	感染症流行前は散歩時に地域の方とあいさつを交わしたり併設する事業所での地域交流をしていましたが、現在はできていない状況です。自治会に入会しており、感染症の収束後には地域交流を行っていきたいと考えています。	どのような地域交流が可能であるか、ボランティア等の受け入れも含めて検討し準備されてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流が十分ではない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	頂いたご意見について、サービスに反映させるよう心掛けている。	運営推進会議は2か月に1回家族代表や地域包括支援センター職員の参加を得て開催していましたが、3月からは書面会議としています。利用者の状況や行事、事故などの報告を行い、意見交換をしています。法人からの感染症対策の指針にそって対策の徹底について話し合い実行しています。	感染症流行の収束後には地域の方の参加や意見が聞くことのできる体制作りを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	十分ではない。	運営推進会議の議事録を直接区役所の窓口へ提出し実情を伝えたり、研修の案内が届き参加することもあります。法人を通して行政にわからないことを聞いたり、注意喚起を受け職員に伝える他、マスク等の必要な備品が届く等、良好な関係を築くよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な行為の把握までは出来ていないが、定期的な研修を行い、不要な身体拘束は行っていない。	年に2回の身体拘束についての研修や3か月毎に身体拘束適正化委員会を行い、必要に応じて会議でも具体的なことを職員に伝え周知しています。玄関やフロアで入り口は施錠をしていますが、外に行きたい様子があれば出るようし拘束感のないよう支援しています。また行動を止めるような言葉掛けのないよう心がけ、不適切な対応があれば都度注意しています。安全に移動する支援のため家族の了承を得てセンサーを使用している方がおり会議や介護計画の見直しの際に必要性を検討しています。	

グループホーム たのしい家 西ノ京(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を行うほか、接遇について注意喚起や個別面談を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	十分ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族様に疑問な点を尋ねながら説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居後のご利用者様の意向を直接訪ねる機会が少ない部分がある。	日々の関わりの中で利用者とのコミュニケーションを図り、外に出たいとの要望があり玄関先の外気浴を行っていく予定です。家族へは毎月利用者の様子を手紙で伝え、意見や要望は面会時や電話でのやり取り、年に1度行う満足度アンケートの実施の際に聞いています。要望は少なく感染症の対策についての質問があった場合は答える等、都度対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を通していこなっている。	毎月行うフロアごとの会議では職員からも議題が出され、業務改善等について話し合い、案件によっては全体会議の中でも検討しています、会議に出席できない職員には事前に意見を聞いています。行事や物品などの担当を決め、職員が主体的に意見を出し、サービスの向上に活かしています。また年に2回面談を行い個別にも意見や希望を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意欲を掻き立てるための取り組みが十分でない部分がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な研修を行っている。		

グループホーム たのしい家 西ノ京(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や会議を通して、社内における他事業所管理者や職員との交流がある。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントの際に、出来る鍵地安心感を持って頂けるようなコミュニケーションを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族へのヒアリングを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ヒアリングを十分に行い、必要としている支援の把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみなど、出来る部分を協力して行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その時々々の想いなどをお聞きしながら関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話のやり取りや、面会によりこれまでのつながりを保って頂くよう努めている。	感染症流行前は家族と自宅や墓参りに行く方がいたり、友人の来訪があり居室で過ごしてもらっていましたが、現在は親族とは相談室で面会してもらったり主に電話の取次ぎをしています。年賀状が届き返事を出す方がおり、一緒にはがきを買いに行く等の支援をしています。	

グループホーム たのしい家 西ノ京(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置について、入居者様同士の関係性を見ながら考え、良好なかかわりを持って頂けるよう工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	十分ではない。	入居前に自宅や施設、病院を訪問し面談を行い生活歴や趣味嗜好、習慣、希望などを聞き思いや暮らし方の希望の把握に努めています。入居後は日々の関わりの中で得られた情報は申し送り等で共有し、意思疎通の困難な場合は家族から情報を得たり、会議で本人本位に話し合い思いの把握に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報を聞き取り、周知に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握に努めている。状態に変化があれば会議の場などで対応を話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画への反映がやや後手に回る面がある。	アセスメントの基サービス担当者会議を開き介護計画を作成し、3か月ごとに計画作成担当者がモニタリングを行い、6ヶ月ごとに見直しています。見直しに当たっては家族の意向を確認し、必要に応じて医師や看護師から意見をもらい、再アセスメントを行いサービス担当者会議を開いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有について十分ではない。		

グループホーム たのしい家 西ノ京(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて極力、柔軟に対応するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	十分でない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の提携先となる医療機関との連携をすすめている。	入居時にかかりつけ医を継続できる事を説明し、継続する方は家族と受診してもらっています。協力医は月に2回往診に来てもらい24時間連携で体調不良時等は電話をかけ指示を仰ぎ対応しています。週に1回の訪問看護は日々の健康管理や褥瘡処置等を行ってもらっています。訪問歯科も週に1回往診があり希望や必要に応じて受けてもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報共有について十分ではない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	十分ではない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	意向について入居時に確認し、その後は状態の低下が見られるときなど、節目で確認を行っている。	重要事項説明書に重度化や看取り支援についての指針が載せられており、入居前に説明しています。この一年の間に3人の方の看取り支援を経験しており、重度化した時には医師の判断の基家族に説明してもらい、ホーム職員も一緒に連携を図り情報共有しながら方針を決めています。看取り支援のマニュアルを整備し、都度勉強会を行いながら支援し、家族には面会を増やしてもらったり食事介助の協力を得ながらコミュニケーションを図り思いに沿った支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践的な訓練が行えていないが、緊急時の対応について、口頭説明や、書面にまとめ共有している。		

グループホーム たのしい家 西ノ京(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	十分ではない。	年に2回行う消防訓練は消防署の立ち合いの下昼夜を想定し、通報や初期消火、利用者も参加して防火扉の中までの避難誘導を実施しています。水や3日分の食料、懐中電灯、簡易トイレなどを準備しています。地域との協力体制を整えていくことを課題としています。	訓練の際に近隣に案内をしたり運営推進会議で地域との協力体制について話し合われてはいかがでしょうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分ではない。	接遇マナーや認知症ケア、虐待等の研修を通して職員は尊厳を守りプライバシーを損ねない対応について学んでいます。挨拶や入室前のノック等基本的なことから意識を高め、人生の先輩として関わることを伝えています。年に2回チェックシートを用いて自己チェックや振り返りを行い、不適切な対応があれば管理者が注意したり、会議で話し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るような言葉かけを意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	十分ではない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を選ぶ際に入居者様に確認して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けを行っている。	業者の季節行事も取り入れられた献立にそって食材とレシピが届きホームで調理し、利用者には盛り付けや食器拭き等のできる事に携わってもらっています。時々寿司などの出前を取ったり、希望を聞いてお好み焼きや流しそうめん等を楽しんだり、またホットケーキなどのおやつを手作りすることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分拒否の多い方に関しての対応が十分ではない。		

グループホーム たのしい家 西ノ京(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位が困難な方に対しても、職員が二人介助をしながらトイレでの排泄を維持している。	フロア毎に排泄チェック表を作ったり、日々の記録から排泄パターンを把握し、個々のタイミングでトイレに行けるよう声掛けや支援をしています。日々の利用者の様子を観ながらその人に合った排泄用品や支援方法を考えて試み、カンファレンスで決めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分ではない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	十分ではない。しかし、同性介助をご希望の方に関しては、ご意向に沿った対応を取っている。	入浴は週に2回日中の時間帯で支援し、一人ずつ湯を入れ替え利用者の好みに合わせて湯温を調整にゆっくりと入ってもらっています。希望があれば回数を増やす事等の対応は都度検討し、拒否する方にはタイミングを図ったり職員を交代する等して無理なく入ってもらっています。好みのシャンプーやリンスを持参している方もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床のタイミングについて、本人様の様子を見ながらお声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	十分ではない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや、食器拭き、工作活動などを通して、残像能力の活用や、気分転換をはかれる活動を意識している。		



グループホーム たのしい家 西ノ京(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時期にもよるが、遠出が出来ない場合でも施設の玄関先で空気を吸って頂いている。	利用者の希望にそって散歩やドライブに出掛けたり、日常的なゴミ出しを利用者と行ったり玄関先での外気浴を行い外に出る機会を作っています。コロナウイルス流行前は初詣に行ったり、水族館や植物園等への外出行事も行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	十分ではない。紛失のリスクを考え、基本的には金庫で預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会の頻度が少ない場合でも、施設の電話を使いながら友人や家族と電話でやり取りをして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間帯によって照明の明るさを調整したり、食事中にはリラックスできるような音楽をかけている。	毎月利用者と一緒で作成した貼り絵などの壁絵や家族等が持って来てくれる生花を飾ることもあり、季節を感じるができるようにしています。利用者同士の関係性に応じてテーブルの配置や席に配慮し、少人数で過ごせるソファはテレビ横に置いています。常時換気し毎日掃除や消毒を行い清潔を保ち、利用者の体感も聞きながら室温管理をして快適に過ごせるよう支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置について、入居者様同士の関係性を見ながら適宜変更を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物を持ち込んで頂いている。	入居時に使い慣れた物を持って来てもらうように説明し、タンスやソファ等の家具をはじめ、好みのぬいぐるみや自宅から持参した絵、趣味の本や編み物道具などを家族が配置を考え、その人らしい居室となっています。毎日換気を行い、2日に1回可能な利用者と一緒に掃除を行い清潔で心地良く過ごせるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室などの場所が把握しづらい方については、目印をするなどして工夫している。		